天地人

練馬区立上石神井中学校
第二学年 学年便り【第６号】
令和８年５月２６日 発行

～ 天の時 地の利 人の和 ～

こんなこともありました。

前号では各係の活動やその頑張りを中心にお伝えしました。今号では、“こんなこともありました”というエピソードを交えて、修学旅行でのできごとをお伝えしたいと思います。

ピースプロジェクト

今回の修学旅行で、主役並みの活躍をしていたピースプロジェクトのメンバー。２年生の３学期末にメンバーを募集し、１０名の有志が集まってくれました。長崎修学旅行の大きなテーマの一つだった「平和学習」。それに向けて、平和宣言文（裏面掲載）の作成や千羽鶴の制作など、たくさんの仕事を１０人のメンバーでやり遂げました。修学旅行当日は、平和祈念公園で平和のセレモニーや被爆者講話の司会進行なども務めました。修学旅行前には、ほぼ毎日放課後遅くまで残った作業を行い、長崎へ持っていく千羽鶴を完成させてくれました。前日の学年集会でその千羽鶴を披露した時には、みんなから「おー！すごーい！」という歓声が。千羽鶴は、当日プロジェクトメンバーの代表が原爆資料館に奉納してきました。ピースプロジェクトが、今回の修学旅行を成功に導いた大きな大きな力になりました。

ドタバタの中で、頑張った！！

様々なシーンが印象に残っていますが、その中でも特に印象に残っているのが、修学旅行 ２日目の長崎市内班行動の「ゴールシーン」です。前号でも書きましたが、「都内巡りよりも交通機関がシンプルで、簡単」と高をくくっていたのが大間違いでした。バス停を探すのに右往左往したり、少ないバスを逃すまいと走ったり、坂の多い長崎の街を歩き回ったり…。そして帰着予定時刻が近づくにつれて、本部携帯は鳴りっぱなし。ある班からの電話に出ると、開口一番班長が「どうやって帰ればいいですか？」との電話でした。山をのぼる途中で迷子になってしまった様子。乗る予定だったバスが目の前を通過してしまい、次のバス停まで走って追いかけた班もあったそうです。慣れない土地での班行動に、みんなほとほと疲れ果てた様子でした。帰ってきたときには、みんな膝に手を当て、中にはそこに座りこむ生徒も。ただ、その疲労感以上に生徒から伝わってきたのが“充実感”や“達成感”でした。疲れた表情の中にも、みんなで協力しながら事前に決めたコースを回ったという満足げな表情がうかがえました。その表情を見るだけで「みんなで頑張ったんだな」というのが伝わってきた、そんなワンシーンでした。

慣れた様子で

３回目の宿泊行事。宿泊行事であるあるなのが、限られた時間で入らなければいけない入浴のドタバタ劇です。特に女子は、長い髪を洗ったり髪を乾かしたりと、そこはまさに戦場。しかし、この学年は私が今まで見てきた生徒の中で最も入浴が早いという特技をもった学年なのです。決められた入浴時間の数分前になると、次のグループが浴室前に集まり始めます。そして、２分前くらいから教員の時計をじっと見つめ、その時間になった瞬間、試合開始と言わんばかりの勢いで浴室へ入っていくのです。宿泊行事では手を焼くはずの入浴ですが、この学年ではその経験がありません。みんな慣れた様子で、気持

ちよさそうに浴場から出てくるのでした。



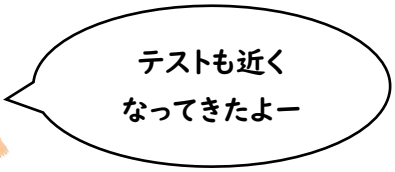
空港、そして機内で

今回の修学旅行が、初めての飛行機という生徒も半数はいたでしょうか。空港では、初めてという緊張感や一般客がいたこともあり、終始落ち着いて過ごしていました。保安検査場では、手荷物等が引っかからないか少し緊張した様子。保安検査場でひっかかってしまった友達を待つ間も静かに待機し、機内に乗り込む時も客室乗務員の指示をしっかりと聞いていました。しかし！！飛行機に乗って離陸が始まった途端、「キャー」という声。また、雲を抜ける時や気流が乱れて飛行機が揺れたときにも「キャー」という声が。飛行機に何度となく乗っていますが、機内であの声を聞くのは初めてでした。「一般客の方はさぞ迷惑だろうな…」と内心申し訳なくもありましたが、その初々しさにほほえましくもありました。福岡から東京に戻ってくる帰りの飛行機では、一人一台モニターがついていてそれぞれ好きな映画や番組を見ていたのであっという間の時間だったと思います。みんなで乗った飛行機も、思い出の一つになりました。

今後の予定

5月	25日（月）	全校練習
	27日（水）	運動会予行練習
	28日（木）	予行予備日
	29日（金）	前日準備
	30日（土）	運動会
6月	1日（月）	振替休業日
	3日（水）	運動会予備日 専門委員会
	8日（月）	学校朝会
	10日（水）～ 11日（金）	1学期期末考査





平和宣言文

私達が今立つここ、長崎に、８１年前原子爆弾が落とされました。１９４５年８月９日のあの日、この場所で、私たちと同じ中学生を含む多くの人々が、なぜ命を落とさなければいけなかったのでしょうか。原爆によって長崎は悲しみの海となり、今もなおその歴史に苦しんでいる人がいます。

戦争は人の命を奪うだけではありません。当たり前の生活、未来をも無くし、残された人にも深い傷を負わせます。この長崎で起きた悲惨な出来事は、遠い過去の話ではなく、私達が向き合い続けなければならない「現在」です。

今も世界では、戦争や核の脅威の中で生活している人たちがいます。私たちの生きている時代が、誰かが苦しんだ悲惨な時代として後世に伝わっていくような時代にしてはいけません。

戦争を知らないわたしたちに、何ができるのでしょうか。私達は幸運なことに、戦争を経験した人の話を実際に聞く機会がありました。わたしたちには、今回学んだことを未来へとこの手で語り継ぐことができます。わたしたちは、過去の歴史から目を背けず、被爆者の皆さんの思いを受け継ぎ、語り継いでいきます。そして日常の小さな争いを話し合いで解決し、周囲の人を大切にする心を持ち続けます。平和な未来をつくる主体者として行動していきます。１９４５年８月９日の惨禍を忘れず、ここ長崎の地から、核兵器のない、平和な世界の実現を強く願います。

練馬区立上石神井中学校
令和８年度第三学年一同

代表
３年Ａ組
３年Ｂ組
３年Ｃ組
３年Ｄ組